

変わる欧州、社債という選択

中

東情勢を背景に、安全保障を軸とした世界経済の構造変化が改めて意識されている。エネルギー供給や地政学リスクへの対応は、短期的な景気変動の問題ではなく、国や地域がどのような選択をするかという中長期のテーマだ。欧州では、ロシアによるウクライナ侵攻以降、防衛への意識が急速に高まったが、その動きは一段と強まっており、中長期的な戦略へと移行しつつある。防衛支出や関連投資は、欧州経済の構造に組み込まれ始めていると言えそうだ。

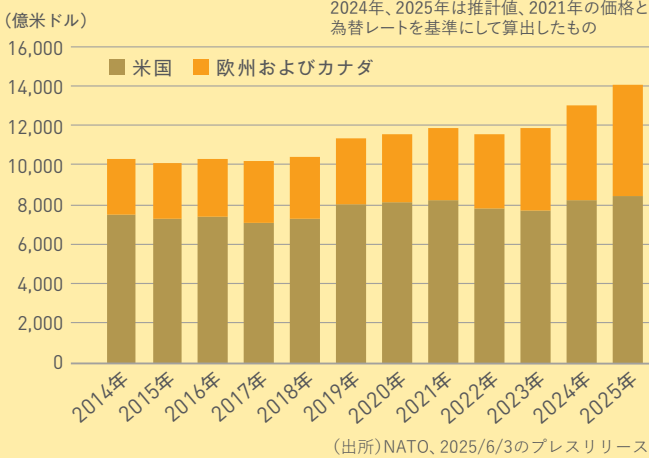
こうした変化は産業の現場にも表れている。例えばドイツでは、従来は自動車関連を中心としてきた製造業の一部が、防衛や安全保障関連分野への用途転換を模索している。既存の技術や供給網を活かしながら新たな需要

に対応しようとする動きであり、産業構造の変化を象徴する例と言える。

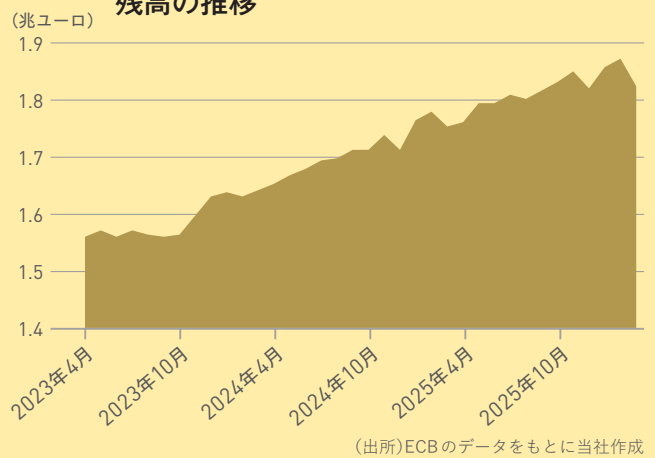
このような中、企業の資金調達行動を通じて変化を捉えられる市場の一つが社債市場。欧州の社債という金融債のシェアが高いが、近年では非金融企業による社債残高も拡大しており、市場としての厚みも増している。

防衛支出などの財政拡張政策は、国債市場には逆風となりやすい一方、新たな支出は企業活動と直接結びつきやすく、信用市場では異なる捉え方が成り立つ。社債市場の市場規模は米国に比べれば小さいものの、欧州では防衛やインフラを軸とした構造変化が、企業活動の前提として定着し始めている。こうした変化が企業活動の前提に置かれつつある中、株式に加え、欧州の社債にも目を向けてみる価値はあるのではないだろうか。 **M**

■ 図表1 NATO加盟国の防衛費の推移



■ 図表2 ユーロ圏の非金融社債（債務証券）残高の推移



野村シュローダー 欧州ハイ・イールド債券ファンド

追加型投信/海外/債券

株式投資のみでは捉えきれない投資機会を捉える選択肢。

主として欧州ハイ・イールド債券に投資し、周辺市場にも機動的に投資します。充実した運用調査体制とグローバルな知見を活かし、欧州ハイ・イールド債券市場から銘柄を厳選することで、収益機会の拡大をめざします。

商品のお申込みにあたっては目論見書等を必ずご確認ください。目論見書等のご請求はお取引店までどうぞ。